就職・キャリア通信

盛況だった「保護者のための就職説明会」

6月13日、御井キャンパスにおいて、「保護者のための就職説明会」を開催しました。毎年父母の会・総会にあわせて開催しておりますが、4回目となります今回も、大勢の保護者の方々にご参加いただきました。この場をお借りして、ご参加いただいた方々にお礼申し上げます。

はじめに、私より挨拶を申し上げると共に、1～3年生にアドバイスしていること（「単位を3年間でできるだけとること」「就職活動中にアルバイトをしなくて済むように貯金をすること」「充実した学生生活を送ること」）、4年生にアドバイスしていること（「とにかく多数受けること」「落ちても落ち込まないこと」「就職・キャリア支援課を利用すること」）を紹介しました。

加えて、「就職活動は生涯所得の大きな分かれ目である」こと、「現在の就職活動は、以前とは大きく異なり、長期間にわたる緊張と膨大な作業を伴うが、それにより学生は大きく成長する」こと、保護者の皆さまは、「一歩下がった伴走者」としてお子さまを温かく見守っていただきたいこと、などをお願い致しました。

講演する塚崎就職部長

次いで、株式会社リクルートキャリアの津川毅様より、最近の就職環境についてお話しいただきました。就職活動の流れ（企業に関する情報をさまざまな手段で収集し、エントリーで資料請求を行い、説明会に参加し、エントリーシートを提出し、適性検査を受け、面接や試験を受ける）を説明していただいたほか、2016年卒から就職活動の時期が後ろ倒しになったこと、その影響からインターンシップに注目が集まっていること、などのお話をいただきました。加えて、保護者の皆さまへのメッセージとして、就職に成功した学生は周囲と相談しながら進めている傾向が強いこと、親としては、直接「してやること」は少ないけれども、大きな視座を持った相談相手になってやることが重要だ、といったお話をいただきました。

次いで、就職・キャリア支援の真田課長が、就職部の支援行事について紹介しました。就職部では、「就職ガイダンス」、「学内合同企業説明会」、「実践！会社研究、業界研究セミナー」、「就職対策合宿」などの支援行事を行っていることから、これらの内容などを説明し、加えて、久留米大学の就職率、就職先などについても紹介、説明しました。

最後に、田中就職指導部長より、日頃の学生指導で感じていること（マナー・身だしなみ、表情・リアクション、連絡・報告、履歴書・エントリーシート添削などに関すること）、保護者の皆さまへのメッセージ（お子さまに働く姿を見せることが無言の教育になること、お子さまに就職・キャリア支援課の利用を促していただきたいこと、等々）などをお伝えした後、企業の人事担当者と日頃接している際に聞こえる声（「社会人に必要なマナーが欠如している」「緊張感が欠如している」「自分の言葉でしゃべって欲しい」「企業研究が甘い」「基礎学力や会話力を磨いて欲しい」等々）についてお話しました。

以上が、当日ご説明した内容の概要です。限られた時間の中で不十分な部分や至らない部分も多くありましたが、保護者の皆さまには大変熱心に聴いていただきましたので、何らかのお役に立てたのではないかと思っております。

なお、就職部におきましては、説明会に限らず、秋に各地で開催されます地方懇談会の際にも就職関係のお話をさせていただくほか、広報誌などを通じて、今後とも保護者の皆さまに対する情報のご提供を積極的に行ってまいります。加えて、保護者の皆さまからのご質問、ご相談、ご要望などには積極的に対応させていただきますので、就職・キャリア支援課（0942-44-6413）までご遠慮なくご連絡いただければ幸いに存じます。

景気の回復に伴って就職戦線は徐々に明るさを増しているようですが、就職部と致しましては従来にも増して充実した就職支援活動に邁進してまいりますので、今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますように、何とぞよろしくお願い申し上げます。

（就職部長　塚崎 公義）

活躍するOG紹介＜1＞

成長戦略のひとつとして女性の活躍が注目されています。女性のキャリアについて考えていただくため、本学を卒業され、様々な分野で活躍しているOGを連載で紹介していきます。

大学での経験が憧れの新聞記者への第1歩となりました。

西日本新聞社本社　編集局編集センター
柳田（やなぎだ） あかね
学部学科／文学部国際文化学科2011年卒業
出身高校／佐賀清和高等学校
卒後の経歴／2011年4月西日本新聞社入社
北九州本社編集部配属
2015年8月より現職

どのような学生生活を送りましたか？

新聞記者になるために、やりたいと思ったことは何でも挑戦しました。大学4年間は大学新聞を作るサークル「編集局」で活動し、講義の一環で参加したワシントンDCへの語学研修や、友人たちとの二度のフィリピン渡航で英語を学びました。就職活動の資金に困らないよう、入学後すぐからアルバイトを掛け持ちしたりシフトにたくさん入ったりしました。すべて夢を実現するために勉強も遊びも全力投球でした。

業界を選んだきっかけ・理由は何ですか？

3年生の夏に参加した西日本新聞社のインターンシップが今の仕事ができるようになったひとつの大きな転機です。入学時に講義実施要綱（シラバス）でインターンシップがキャリア科目で開講されていたのを知り、履修しようと決めていました。インターンシップのおかげで記者としてどんなことがしたいのかを具体的に考えることができたし、他大学のライバルたちと切磋琢磨して自分を奮い立たせるきっかけになりました。

新聞社での仕事について教えてください。

2011年4月に入社し、4年3ヵ月、西日本新聞北九州本社で警察・司法記者として事件事故や裁判を担当しました。主に暴力団事件を取材し、今年8月から、本社（福岡市天神）の編集センターに配属されました。編集センターは紙面の見出しや記事のレイアウトを決める内勤の部署で、かつては「整理部」などと呼ばれていました。内容は、外勤記者が取材して提出した原稿と写真の価値判断をして、その日の新聞を作ります。集まった「ニュース」という素材をより読みやすく説得力のある「新聞」にするために腕をふるう料理人のような役割です。瞬時にニュースの優先順位を判断する力が問われ、さまざまな情報が集まる部署なので視野が広がります。

在学生へのメッセージをお願いします。

社会人になれば出身大学は関係ありません。ただ、大学で何をどう学んできたかが問われます。久留米大学では学部の垣根を越えて講義に参加できるチャンスが多いし、キャリア支援も手厚く、志の高い人がたくさんいます。腰を据えて将来の夢に近づく努力ができる場所です。夢をかなえるための道具はたくさんあるので、周りに流されず自分の道を歩んでください。

会社紹介

西日本新聞は九州で発行部数が一番多い、地域密着の新聞で、九州に関するニュース量とその鋭さが自慢です。久留米大学の図書館にもあるので、在学中に読む習慣をつけて就職活動の武器にしてください。

西日本新聞社